

仙台市ボランティアセンター広報誌

ぼらせん

BORASEN

vol.28

2025
Winter

特集

地域の力が地域支援へつながる 仙台白百合女子大学



地域の秋まつりに参加した人間学部心理福祉学科・志水ゼミの皆さん

世代を超えた心のつながりを大切に

仙台白百合女子大学では、地域の皆さんと手を取り合いながら、学生が中心となってさまざまな活動を行っています。地域の支え合いや協働の輪を広げる活動を支えるため、学生団体等の活動をサポートしている仙台市の「いずみ絆プロジェクト支援事業」にも参加し、地域に寄り添った取り組みを続けているのが、人間学部心理福祉学科・志水ゼミの皆さんです。地域で暮らす高齢の方から学生へ、そして学生から子どもたちへ。そんな交流の輪からは、世代を超えた温かなつながりが生まれています。昔の遊びをテーマに、地域の人々が笑顔でふれ合う場づくりに取り組む学生たちの姿を紹介します。



竹トンボづくりの道具

Contents

特集

- 地域の力が地域支援へつながる
仙台白百合女子大学 1-3
- 企業の社会貢献 4-5
・損害保険ジャパン株式会社
・三越伊勢丹グループ労働組合
仙台三越支部
- 子どもの居場所づくり 6
・特定非営利活動法人Lagom(ラーゴム)
- 仙台市ボランティアセンターからのお知らせ ... 7
- イベントインフォメーション 8

特集

仙台白百合女子大学
人間学部 心理福祉学科
志水ゼミ

学生がつなぐ地域支援活動

ひとりひとりが輝く地域のために

昔の遊びを通じて 支援の輪を広げよう



秋まつりでもチームワークを発揮



学校や子ども食堂などに雑巾を寄付(2023~2024年度にかけて)



ヘルプマークへの理解を促進するため、市民向けのポスターを作成(2023~2024年度にかけて)



地域の子もたちに大人気



子どもたちも無我夢中



秋まつりにお見えの皆さんに昔遊びのPR

一 自分たちのやりたいことを形に

「竹トンボを作ってみませんか?一緒に飛ばして遊びましょう」。仙台市泉区にある市名坂野蔵町内会の秋まつり会場でお揃いのジャンパーに身を包み、地域の子もたちに元気な声で呼びかけていたのは、仙台白百合女子大学人間学部心理福祉学科・志水ゼミの学生の皆さんです。

現在、地域では高齢の男性の引きこもりが課題のひとつになっています。こうした現状を踏まえ、志水ゼミでは「昔の遊びを通じて地域をつなぎたい」という想いから、高齢の方に教わった昔ながらの遊びを、次の世代である子どもたちに教える活動を続けています。秋まつりの会場では竹トンボづくりに挑戦し、地元の方に教わったやり方で、子どもたちと一緒に遊ぶ姿が見られました。

学生たちはこれまでもコマ回しや、あやとりなど、いろいろな昔の遊びを教わり、地域の人たちとの交流を楽しんでいます。高齢の方の「伝えたい」という想いと、子どもたちの「教えてほしい」という想いをつなぐこと、

それが学生たちの役目です。老人クラブの皆さんから昔の遊びを教わるために開催された将監市民センターでのイベントには、高齢の男性が多く集まり、「これが僕たちの青春だ」と声をはずませながら、いきいきとした表情を見せていたそうです。

「学生が自分たちで考え、やりたいことを形にすることを大切にしています。失敗も大切な学びだと考えています」と話すのは、学科長の志水田鶴子さんです。志水ゼミでは“地域支援”をテーマに、地域の力を借りながら、誰もが安心して暮らせるまちづくりを探究しています。

学生たちは、仙台市の「いずみ絆プロジェクト支援事業」や、仙台市社会福祉協議会の「仙台市ボランティアフォーラム」にも参加し、活動の幅を広げています。今後は南三陸町での交流事業にも関わり、昔の遊びをきっかけにした世代間のつながりをさらに深めていく予定です。

地域のひとりひとりが支え合い、みんながもっと輝ける社会づくりへ。志水ゼミの皆さんの心温まる取り組みは、地域の未来をやさしく照らしています。

大学生の声 VOICE



VOICE 1 人間学部心理福祉学科 3年生
井上 小雪さん

私たちは、引きこもりがちな男性高齢者が地域に出やすくなるように「昔遊び」を媒介とした活動を行っています。男性高齢者の中には「教えることや伝えること」が得意な方が多いのではないかと思います。男性高齢者から「昔遊び」を教えていただき、その楽しさを次の世代へつなぐ循環を地域の中につくり出したいと考えました。

その一環として、仙台市泉区野蔵町内会主催の秋まつりで子ども向けの昔遊び体験を実施しました。秋まつりでは、竹とんぼやめんこを楽しむ子どもたち、親子でけん玉をする姿が見られ、昔ながらの遊びを通してふれあいの時間を過ごすことができました。また、参加してくれた高齢者の方々も「懐かしいね」と笑顔で楽しんでくださり、世代を超えた温かいつながりを感じました。

VOICE 2 人間学部心理福祉学科 3年生
後藤 愛海さん

自宅に引きこもりがちな男性高齢者が「昔遊び」を大学生に教える——そんな機会を通して、地域と交流するきっかけになればという願いから、仙台市の「いずみ絆プロジェクト支援事業」の採択を受けて活動しています。

野蔵町内会の秋まつりでは、男性高齢者から教わったことを活かし、私たち大学生が子どもたちに「昔遊び」を教えるという交流を行いました。私が想像していたよりも子どもたちが「昔遊び」に興味を示してくれ、遊びというものが世代を問わず楽しめるものであると感じました。昔遊びに限定したことで「教える—教わる」という連続性のある関係性が構築され、世代間交流の場を提供できたと思います。違う世代に教えるという役割を担うことが交流につながり、それが活動として広がっていくと考えています。

VOICE 3 人間学部心理福祉学科 3年生
佐々木 萌愛さん

仙台市泉区野蔵町内会主催の秋まつりに参加して、私たちが地域の男性高齢者の方に教えてもらった「昔遊び」を、たくさんの子もたちに教えることができ、世代を超えてコミュニケーションをとることができました。

お祭りに来ていた高齢者の方たちにも楽しんでもらったのはとても嬉しかったです。逆に私たちが子どもたちからけん玉のコツを教えてもらう場面もあり、私たちが「教える」だけでなく、「教えてもらう」ことによって、子どもが持つ力を発見することができました。子どもたちは今まで経験したことのない「昔遊び」に興味津々で、夢中になって体験してくれたことにやりがいを感じました。実際に「昔遊び」を子どもたちに教えるのは初めてでしたが、みんな笑顔で遊んでくれて自信がつけましたし、とても良い経験となりました。

VOICE 4 人間学部心理福祉学科 3年生
辻田 愛弥さん

私たちのゼミでは、地域活動への参加が少ない男性高齢者を対象に、「昔遊び」を媒介として地域活動への参加を促すための活動をしています。私たちがイベントを企画し、男性高齢者の方が子どもたちに「昔遊び」を教えるという役割を担ってもらうことで地域活動への参加を促し、世代を超えた関係づくりに貢献できればと考えています。

今回、泉区野蔵地区の秋まつりに参加し、多くの子どもたちが私たちのブースに来てくれて、想像していたよりも子どもたちが「昔遊び」に興味をもってきていることに驚きました。「昔遊び」をしたことがない子どももいましたが、知らないことだからこそやってみようと思ったのかもしれない。今後は今回の取り組みをもとに高齢者の方とのつながりもつくっていかれたらと考えています。

VOICE 5 人間学部心理福祉学科 3年生
土田 美結さん

私たちのゼミでは、地域とつながりにくい男性高齢者が地域活動に参加しやすくなるように、「昔遊び」を中心とした取り組みを行っています。泉区野蔵地区の秋まつりでは、竹とんぼやけん玉など、懐かしい遊びを体験し、自分なりの竹とんぼが作れるブースを出しました。

もともとは高齢の方向けの活動であるため、子どもたちに楽しんでもらえるか不安もありましたが、実際には多くの子どもが笑顔で遊び、ときには高齢の方と一緒に競い合う場面も見られました。この様子から、「昔遊び」を通じて世代を超えた交流の場を生み出せたと感じています。今後もこうした活動を継続し、地域の人々が自然に集まり、つながりを深められる機会を増やしていきたいと考えています。

シニアドライバー安全運転講習



▲泉警察署の職員による講話



▲シニアカー体験



▲安全運転シミュレーター

損害保険ジャパン株式会社 仙台自動車営業部では、宮城県警察やカーディーラーと協力しながら、地域の安心・安全なまちづくり支援の一環として「シニアドライバー安全運転講習」を開催しています。

「この講習は、シニアの皆さんにとって“運転技術の健康診断”のようなものです。年に一度は受けて、自分の運転を見直すきっかけにしてほしいですね」とお話しくださったのは、仙台自動車営業部の小野瀬浩子さんです。「みんなで楽しく体験しながら、自分の運転能力を知ることができるのは、この講習の大きな魅力です。実際に体験することで、“次からは気をつけよう”という意識につながれば嬉しいですね」。

泉区の南光台地区で行われた講習会には、22名の参加者が集まりました。泉警察署の職員による講話や動画の視聴の後、参加者は少人数のグループに分かれて、「認知機能チェック」「安全運転シミュレーター」「シニアカー体験」「サポカー体験」という4つのブースを回りました。安全運転シミュレーターでは、俊敏性を

もとに“運転年齢”を算出することができ、「自分の運転年齢は40代だった」「これからも安全運転を心がけたい」といった声が聞かれていました。

「楽しく学べた」「自分の運転を見直す良いきっかけになった」と、参加者からは笑顔の感想が寄せられています。仙台自動車営業部では、今後も関係機関と連携を図りながら、シニアドライバーの安全運転の輪を地域に広げていきます。

損害保険ジャパン(株)の社会貢献

損害保険ジャパン株式会社の社会貢献についてお知りになりたい方は、こちらをご覧ください。



フードドライブで子ども食堂を応援



▲仙台市社会福祉協議会(左)への寄贈



▲従業員からの食品お預かり



▲回収BOXと告知ポスター

三越伊勢丹グループ労働組合では、「食を通じて誰かの笑顔につながる支援を」という想いで、2021年からフードドライブ活動を続けています。労働組合の本部とも連携しながら、仙台三越支部では仙台市社会福祉協議会の協力を得て、市内で子ども食堂を運営する団体へ食品を寄贈しています。

活動の流れとしては、夏と冬の年2回、プロジェクト期間を設けて、仙台三越内の事務所や休憩スペースなどに回収BOXを設置し、従業員(組合員)の皆さんに「ご家庭で余っている食品があればぜひご協力を」と呼びかけています。社内ホームページやポスターでの案内も行い、支援の輪は少しずつ広がっています。

「これからも活動を続けていくこと、そしてもっと多くの従業員にこの取り組みを知ってもらうことが大切だと思っています」と話すのは、仙台三越支部で執行委員長を務めている工藤翼さんです。「いずれは食品だけでなく、人の力による支援など、地域のニーズに合わせて柔軟に対応していきたいですね」とも語って

くださいました。

市内の子どもたちに対し、笑顔を届ける仙台三越支部の皆さんの取り組み。今後労働組合の本部では、北海道や名古屋、広島など、各支部の従業員が寄贈したいと思ったときに、各団体と連携が図れる仕組みについても検討を進めていこうと。本部や各支部の働きかけを通じて、従業員ひとりひとりの想いが形となり、子どもたちの笑顔の輪はさらに大きく広がっていくことでしょう。

他の支部の取り組み

三越伊勢丹グループ労働組合の「2025年度夏 子ども食堂支援フードドライブ活動報告」は、こちらをご覧ください。



子どもの居場所づくり

～ 温かさが伝わる地域のつながりの場～

ラーゴム子ども食堂(仙台市青葉区)



みんなの笑顔が咲き誇る、こどものパブ

「ママやパパが、子どもたちと一緒に夜でも安心して出かけられる場所をつくりたい。そんな想いを込めて、自分たちのこども食堂のことを“こどものパブ”と呼んでいます」と話してくださったのは、特定非営利活動法人Lagom(ラーゴム)代表の佐野仁美さんです。地域に暮らすお母さんたちが、まるでご近所同士のように気軽に集い、ほっとできる場所をみんなで育てていこうという温かな気持ちで、この活動には込められています。

こども食堂は月に一度。ボランティアの方が作っているチラシをきっかけに訪れる方が増え、今ではリピーターも多くなりました。利用者からは「夕ご飯をつくらなくていいのが助かる」「いろいろな人と出会えて楽しい」といった声が寄せられています。また、利用者の中には「私も手伝いたい」と調理をサポートしてくれるようになった方もいるそうです。

Lagomでは訪問看護ステーションも運営しており、車いすなどで外食が難しい方からも「ここなら安心して過ごせる」「心地よく利用できる」と喜びの声が届いています。出会いや温もりを大切に、地域の人々のやさしさが行き交うLagomのこども食堂。これからも笑顔が広がる温かなつながりの場として、新たな挑戦を続けていきます。

INFORMATION

詳しくは「ラーゴム子ども食堂」のInstagramをご覧ください。



仙台市ボランティアセンターからのお知らせ

? 災害ボランティアセンターってなあに?

仙台市青葉体育館での訓練



仙台市若林体育館での訓練



ゼビオアリーナ仙台Sports Laboでの訓練



「災害ボランティアセンター」とは、地震や台風などの自然災害が発生した際に、被災地での支援活動を希望するボランティアと、支援を必要としている被災者や地域をつなぐための拠点(センター)です。

被災者からのボランティアニーズを受け、そのニーズに対応するために市内外から来るボランティア活動者を現地に派遣するなど、災害時の様々な対応を行います。

仙台市社会福祉協議会では、災害時に確実に災害ボランティアセンターを設置・運営できるよう、毎年、

各区の設置予定施設で訓練を実施しています。

この訓練には地域住民の皆さまにもご参加いただいております。参加を通じて災害ボランティアセンターの役割や仕組みを学ぶことができます。災害時、地域でお困りの方やボランティアによる支援が必要な方がいたら、ボランティアセンターへつないでください。

仙台市災害ボランティアセンターホームページはこちら▶



ごみ拾いボランティア交流会を開催しました!

令和7年6月7日(土)と10月4日(土)にごみ拾いボランティア交流会を開催しました。こちらの事業は、仙台市内の事業者が健康的に楽しみながら、環境整備の一環として、ごみ拾いに取り組むことで、ボランティア活動を始めるきっかけと他事業者と交流する場づくりとして行われております。これまでの開催の様子は仙台市社協公式YouTubeチャンネルでご覧いただけます。



▲6月開催時の様子



▲10月開催時の様子

仙台市社協公式YouTubeチャンネルはこちら▶



令和7年度に参加いただいた参加企業及び団体一覧

(順不同)

- 株式会社 上郡店
- 株式会社 共栄防災
- ことばのぼり社 労務・行政書士事務所
- 株式会社 サンゲツ 東北支社
- 株式会社 藤昭和 羽前建設工業
- (一社) 仙台設備工事業協会
- 損害保険ジャパン株式会社
- 株式会社 広瀬病院 介護事業部
- 日新火災海上保険株式会社
- 日本ビューレット・パッカー合同会社
- 株式会社 宮城衛生環境公社
- 株式会社 宮城興業
- 税理士法人 s.m.consulting
- 株式会社 ドコモCS 東北
- 株式会社 ドコモCS 東北 監査部
- 株式会社 ドコモCS 東北 宮城支店
- 株式会社 錦エステート
- 明治安田生命保険相互保険会社 仙台広瀬通営業部
- ヤマト運輸株式会社 新宮城主支店
- 法務省 東北矯正管区
- 竹親連合会
- 株式会社 サンテック 東北支社
- 株式会社 東北共立
- 株式会社 マルハン
- 宮城第一信用金庫
- 仙台第二マーケット開発室
- ウエノ設備株式会社
- 東北高等学校
- 仙台青葉学院短期大学
- 東北福祉大学
- 宮城学院女子大学
- 仙台市立仙台青陵中等教育学校
- 高森中学校 同窓会
- (社福) 仙台市社会福祉協議会

イベントインフォメーション

仙台市 フードドライブ支援事業

ご家庭やオフィスで、眠ったままの食品はありませんか？

仙台市内に事業所がある法人・団体の参加を募集しています。賞味期限が1ヶ月以上ある常温保存可能な食品（※生鮮食品を除く）のご提供をお願いしています。ご提供いただいた食品は、フードバンク団体を通じて、生活にお困りの方々や支援団体・施設、子ども食堂などへ届けられます。

食品ロスの削減にもつながるボランティア活動ですのでぜひこの機会に、食品寄贈による地域貢献にご協力ください。

仙台市
フードドライブ

賞味期限が
1か月以上先の
常温保存ができる食品
(生鮮食品以外)を回収



生活困窮者や
支援団体・施設、子ども食堂等へ
提供されます。



ボラカフェ

仙台市ボランティア連絡協議会の皆さんと一緒に
ハンドメイド作品を作ってみませんか？

作り方を覚えて、お友達に教えてあげたり、おうち
で楽しんだりするのもおすすめです。年齢や性別に
関係なく、どなたでもご参加いただけます。

はじめての方も大歓迎!お気軽にご参加ください。



参加者
募集中



日時 1月9日(金)

10:00~15:00 (お昼休み12:00~13:00)
※出入り自由

その後は
2月10日(火)、3月10日(火)
を予定しております。

場所 EARTH BLUE仙台勾当台8階会議室3

必要物 材料費100円

青葉区ボランティアセンター

仙台市青葉区二日町4-3 仙台市役所二日町分庁舎1階 TEL022-265-5260

青葉区宮城支部事務所

仙台市青葉区下愛子字観音堂27-1(仙台市宮城社会福祉センター内) TEL022-392-7868

宮城野区ボランティアセンター

仙台市宮城野区原町3-5-20 メゾン坂下1階 TEL 022-256-3650

若林区ボランティアセンター

仙台市若林区保春院前丁3-1 若林区中央市民センター別棟1階 TEL 022-282-7971

太白区ボランティアセンター

仙台市太白区長町南3-1-30南部アーチル1階 TEL 022-248-8188

泉区ボランティアセンター

仙台市泉区七北田字道48-12(泉社会福祉センター内) TEL 022-372-2603

▼ 掲載記事に関するお問い合わせは仙台市ボランティアセンターまで ▼



社会福祉法人

仙台市社会福祉協議会

仙台市ボランティアセンター

〒980-0011

仙台市青葉区上杉1丁目6-10 EARTH BLUE 仙台勾当台6階

TEL 022-262-7294 FAX 022-216-0140

▼ ホームページはこちら

<https://www.shakyo-sendai.or.jp/>

仙台市ボランティアセンター

検索

